



JSP Corporation
Engineered Plastic Foams

決算説明会

— 2014年3月期 —

株式会社JSP

1. 2014年3月期決算概要(2013年度)
2. 2015年3月期決算見通し(2014年度見通し)
3. 2014年3月期決算補足(2013年度補足)

決算概況

2013年度

JSP Corporation
Engineered Plastic Foams

(単位:百万円)

項目	2012年度 実績	2013年度 業績予想 (2013.10.30公表)	2013年度 実績	前年比	公表比
売上高	96,038	109,500	112,128	117%	102%
営業利益	4,575	6,300	5,909	129%	94%
経常利益	4,927	6,400	6,509	132%	102%
当期純利益	3,324	4,200	4,404	132%	105%

- 円安の定着 US\$=¥98.0 €=¥130.6 (前年US\$=¥80.1 €=103.5)
- 国内は消費税引き上げ前の耐久消費財特需もあり緩やかに回復
- 北米・南米の自動車市場は好調に推移
- 欧州は債務危機が沈静化し自動車市場も後半は回復基調
- アジアは自動車市場及び家電市場が依然高い成長を維持
- 原燃料価格の高止まり

押出事業

2013年度

JSP Corporation
Engineered Plastic Foams

(単位:百万円)

項目	2012年度 実績	2013年度 実績	前年比
売上高	35,148	39,614	113%
営業利益	2,386	1,926	81%

高断熱材ミラフォームは販売好調、家電市場低迷でミラマット需要減

- 産業用包装材「ミラマット」大型デジタルテレビの需要減で売上高減少
- 産業用包装材「キャプロン」家電向けは需要減、新用途開拓で売上高増加
- 産業用包材「Pボード」スマートフォン・タブレット端末向けの需要増で売上高増加
- トラック積載品保護材「ミラプランク」物流量が増加し売上高増加
- 食品包材「スチレンペーパー」堅調な需要と新規グレード品の拡販で売上高増加
- 広告用・折材「ミラボード」消費税率引き上げ前の大型家電等の特需で売上高増加
- 住宅用断熱材「ミラフォーム」消費税率引き上げ前の駆け込み需要で売上高増加

(単位:百万円)

項目	2012年度 実績	2013年度 実績	前年比
売上高	55,447	67,034	121%
営業利益	2,688	4,545	169%

EPP数量増(106%) + 円安効果 = 増収増益、EPS価格是正で売上高増加

- 自動車用部品、家電製品包装材用途の「ピーブロック」(英名ARPRO)
 - 日本:軽自動車への採用拡大、ユニットバス保温緩衝材の需要増で売上高増加
 - 北米:自動車市場が好調、採用部位拡大で売上高増加
 - 南米:自動車市場が好調で売上高増加
 - 欧州:円安の影響で売上高増加
 - アジア:自動車市場及び家電市場が依然高い成長を維持し売上高増加
- 魚箱、家電製品緩衝材、住宅用断熱材用途の「スチロダイア」
 - 販売数量は前年並み、原燃料価格の高騰に対する価格是正で売上高増加

その他

2013年度

JSP Corporation
Engineered Plastic Foams

(単位:百万円)

項目	2012年度 実績	2013年度 実績	前年比
売上高	5,442	5,479	101%
営業利益	1	△32	—

国内は駆け込み需要で売上高増、中国は省エネ家電補助金打ち切りで売上高減

- 国内一般包材
消費税率引き上げ前の大型家電などの需要増で売上高増加
- 中国一般包材
省エネ家電補助金の打ち切りもあり売上高減少

1. 2014年3月期決算概要(2013年度)
2. 2015年3月期決算見通し(2014年度見通し)
3. 2014年3月期決算補足(2013年度補足)

決算見通し

2014年度見通し

JSP Corporation
Engineered Plastic Foams

(単位:百万円)

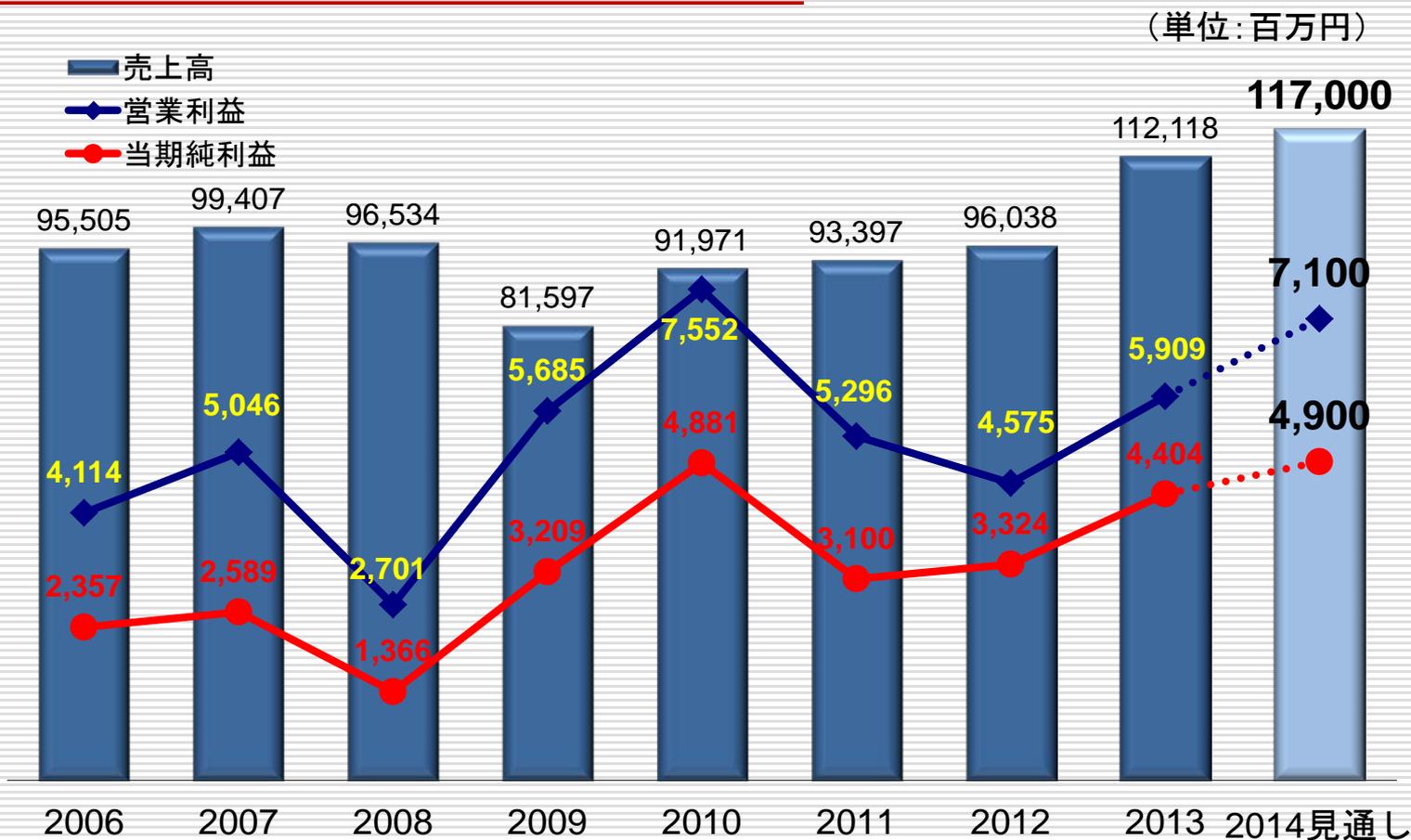
項目	2013年度 実績	2014年度 見通し	前年比
売上高	112,128	117,000	104%
営業利益	5,909	7,100	120%
経常利益	6,509	7,200	111%
当期純利益	4,404	4,900	111%

- 円安の定着 US\$=¥100 €=¥130 (前年US\$=¥98.0 €=130.6)
- 国内は、①円安による輸出産業の回復②震災からの復興需要③住宅用断熱材の需要は好調維持、④東京五輪開催に向けた公共事業の増加など明るい兆し
- 北米は、自動車販売台数がリーマンショック前の1,600万台に回復
- 欧州は、債務危機の一巡を受け景気は回復基調で推移
- アジアは、高い成長を維持し中国の自動車販売台数は2,400万台へ
- 前年に引き続き原燃料価格は高止まり

業績の推移

2014年度見通し

JSP Corporation
Engineered Plastic Foams



押出事業

2014年度見通し

JSP Corporation
Engineered Plastic Foams

(単位:百万円)

項目	2013年度実績	2014年見通し	前年比
売上高	39,614	40,285	102%
営業利益	1,926	2,039	106%

スチレンペーパー拡販、ミラマット差異化で需要確保、ミラフォーム高断熱材の拡販



スチレンペーパー拡販

数量＝前年比111%

- 新規グレード拡販



ミラマット製品差異化と新需要開拓

数量＝前年並確保

- 成長産業(スマホ・タブレット市場)での製品差異化
- 新たな市場開拓で数量確保



ミラフォーム高断熱製品拡販

数量＝前年並

- 断熱基準強化の法改正
- 復興需要の継続
- 東京五輪で公共事業増加

高性能・新次世代型断熱材「ミラフォーム®ラムダΛ」

2020年新築建築物の改正省エネ基準の義務化に向けた生産体制整備と拡販

超高性能な断熱性
熱伝導率0.022W/m・K(23℃)を実現。
吸水性が低く安定した性能を発揮します。

高断熱のメカニズム

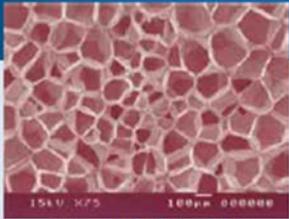
気泡膜の新技术による
輻射熱の抑制・ガスバリア性UP

+

気泡形状による
熱伝導の抑制効果

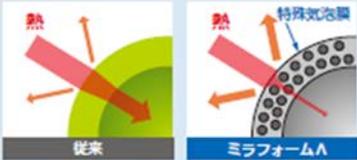
↓

超高断熱化の実現



15kV XZ5 100µm 000000

ミラフォームΛ(ラムダ)の気泡写真



熱 従来

熱 特殊気泡膜

ミラフォームΛ

熱が気泡膜を透過するイメージ

環境・健康・安全対策
ノンフロン・ノンホルムアルデヒド・4VOC基準に適合。

優れた機械物性
ミラフォーム同様 曲げ強度(靱性)に高い性能を発揮。

▶規格

厚さ(mm)	25・30・40・50・55
幅(mm)	910
長さ(mm)	1820
表面状態・色	カットボード・シルバー



- **高性能な断熱材**
熱伝導率0.022W/m・K
吸水性が低く安定性能
- **環境・健康・安全対策**
一般ミラフォーム同様
(ノンフロン・ノンホルムアル
デヒド・4VOC基準適合)
- **優れた機械物性**
曲げ強度に高い性能

ビーズ事業

2014年度見通し

JSP Corporation
Engineered Plastic Foams

(単位:百万円)

項目	2013年度実績	2014年見通し	前年比
売上高	67,034	68,934	103%
営業利益	4,545	5,728	126%

ピーブロック増収増益、スチロディア利益改善



ピーブロック
(英名ARPRO)
車販売好調&
採用部位拡大
増収増益

数量=前年比104%

- 北九州工場稼動(4月)
- 中国重慶工場稼動(10月)
- 北米・チェコ・中国の能力増強



スチロディア
価格是正&
コスト低減
利益改善

数量=前年並

- 機能性EPSの拡販
- 建築土木分野への拡販
- 更なるコスト低減

2014年4月 北九州工場稼動 「ピーブロック」



- 所在地：福岡県北九州市小倉南区曾根北町（北九州空港跡地産業団地内）
- 土地面積：約34,800 m² 建物面積：約3,900 m²
- 生産能力：年間約 4,800トン
- 投資額：約2,050 百万円

2014年10月 重慶工場稼動（東莞の分公司）「ピーブロック」二段発泡工場



東莞工場

自動車部品・家電用緩衝包装材用途の
ビーズ供給体制強化



重慶工場の概要

- 所在地：重慶市内（空港工業園A区）
- 工場面積：2,193 m²
- 生産能力：二段発泡品 年間1,080トン

緩衝特性に優れた「ピーブロック」の用途拡大



津波救命艇

緩衝材として
「ピーブロック」が採用

全長約8メートル、幅、高さ約3メートルの試作艇。強化プラスチック製の本体を発泡樹脂製の緩衝材「ピーブロック」で覆った。

シートベルト付きの座席を25人分備え、床下などに1週間分の食料や水を積める。

ウォールブロック(【軽量盛土】壁材付EPSブロック)の販売に注力 NETIS QS - 040024-V

従来工法



ウォールブロック工法



H鋼不要

- 軽量性：従来のコンクリート製パネルに比べ重量が約1/4
- 経済性：従来のH鋼+壁面材と比べると工費を最大30%程度削減
- 工期短縮：H鋼+壁面材タイプに比べ約15%程度の工期短縮が可能
- 信頼性：2011年にはNETIS「QS-040024V」の設計比較対象技術として評価

製品トピックス

2014年度見通し

JSP Corporation
Engineered Plastic Foams

ヨーロッパ向け消防ポンプ用燃料タンクに「ガスソシー」採用



- 軽量性 : 従来の金属製燃料タンクに比べ重量が約40%
- 性能 : 自動車用燃料タンクのヨーロッパ規格「ECE R34」をクリア

1. 2014年3月期決算概要(2013年度)
2. 2015年3月期決算見通し(2014年度見通し)
3. 2014年3月期決算補足(2013年度補足)

経営成績

2013年度補足

JSP Corporation
Engineered Plastic Foams

単位は百万円、(%)は対前期増減率

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2013年度	112,128 (16.8%)	5,909 (29.2%)	6,509 (32.1%)	4,404 (32.5%)
2012年度	96,038 (2.8%)	4,575 (△13.6%)	4,927 (△11.0%)	3,324 (7.2%)

包括利益 : 2013年度 10,462百万円(153.7%) 2012年度 6,808百万円(253.8%)

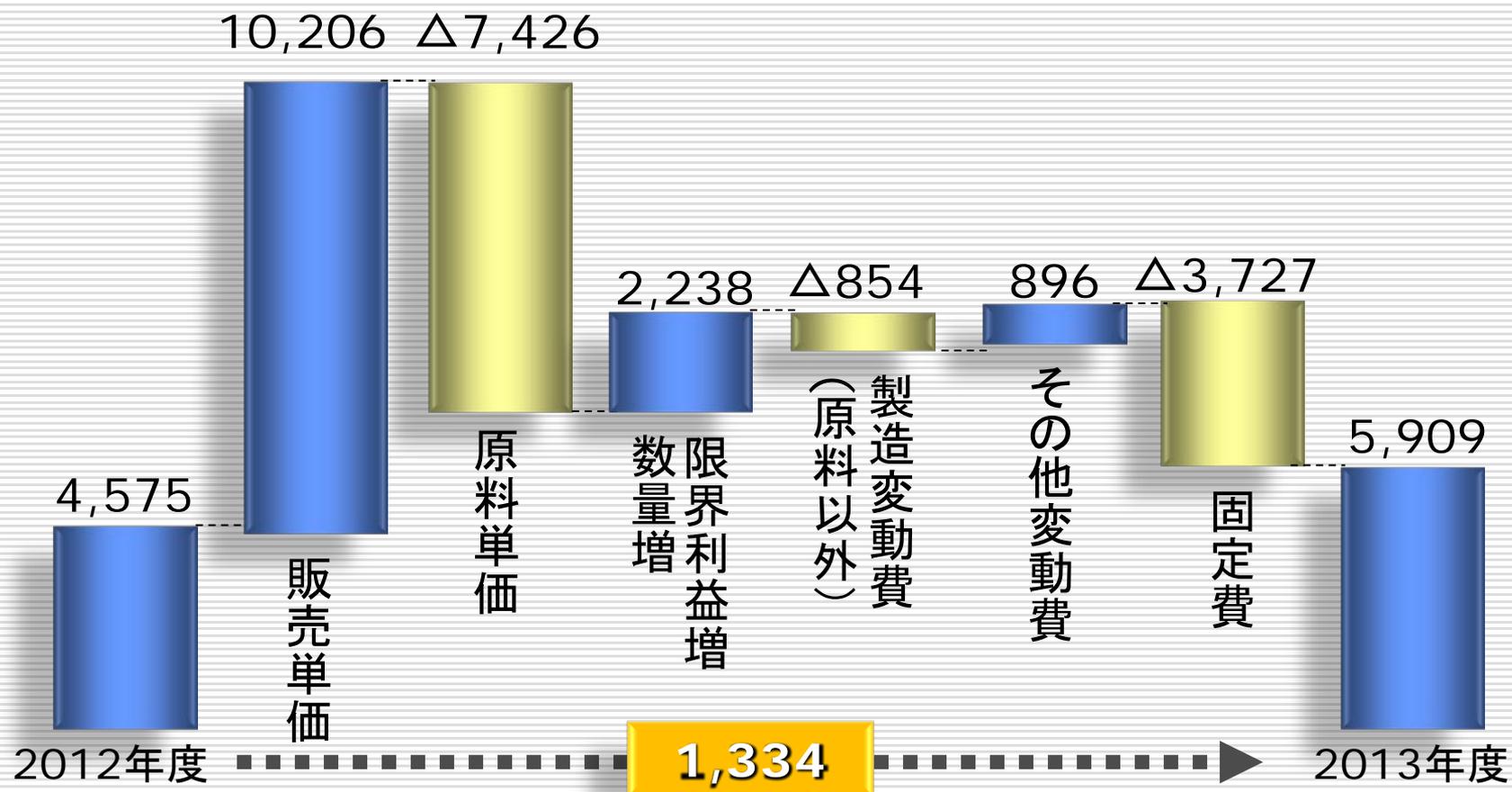
	1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
2013年度	147円73銭	8.2%	6.4%	5.3%
2012年度	111円49銭	7.0%	5.3%	4.8%

営業利益の増減要因

2013年度補足

JSP Corporation
Engineered Plastic Foams

(単位:百万円)



営業外損益・特別損益

2013年度補足

JSP Corporation
Engineered Plastic Foams

営業外損益

(単位:百万円)

科目	2012年度	2013年度
受取利息	209	209
為替差益	—	250
負ののれん償却費	120	—
貸倒引当金戻入額	108	3
その他	361	475
営業外収益合計	798	937
支払利息	201	219
為替差損	91	—
持分法による投資損失	56	—
その他	95	116
営業外費用合計	445	336

特別損益

(単位:百万円)

科目	2012年度	2013年度
固定資産売却益	19	55
投資有価証券売却益	18	66
その他	7	—
特別利益合計	44	122
固定資産除却損	55	60
固定資産売却損	8	34
減損損失	110	—
事務所移転費用	15	—
課徴金引当金繰入額	27	—
その他	4	—
特別損失合計	219	95

財政状態

2013年度補足

JSP Corporation
Engineered Plastic Foams

(単位:百万円)

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり 純資産
2013年度末	108,420	62,375	53.4%	1,940円48銭
2012年度末	95,565	53,431	52.2%	1,671円55銭

(参考)自己資本 2013年度末57,853百万円 2012年度末49,838百万円

貸借対照表

2013年度補足

JSP Corporation
Engineered Plastic Foams

(単位:百万円)

分類	科目	2012年度末	2013年度末	増減額
資産の部	流動資産	52,883	59,255	6,372
	固定資産	42,682	49,164	6,482
	資産合計	95,565	108,420	12,855
負債の部	流動負債	31,251	32,404	1,153
	固定負債	10,881	13,639	2,758
純資産の部	株主資本	55,272	58,780	3,508
	その他包括利益累計	△5,434	△926	4,508
	少数株主持分	3,593	4,522	929
	負債純資産合計	95,565	108,420	12,855

純資産の部

2013年度補足

JSP Corporation
Engineered Plastic Foams

(単位:百万円)

科 目	2012年度末	2013年度末	増減額
資本金	10,128	10,128	—
資本剰余金	13,405	13,405	—
利益剰余金	33,111	36,621	3,510
自己株式	△1,372	△1,374	△2
株主資本合計	55,272	58,780	3,508
その他有価証券評価差額金	139	179	40
為替換算調整勘定	△5,573	△596	4,977
退職給付に係る調整累計額	—	△509	△509
その他包括利益累計	△5,434	△926	4,508
少数株主持分	3,593	4,522	929
純資産合計	53,431	62,375	8,944

キャッシュフロー

設備投資・減価償却・研究開発

2013年度補足

JSP Corporation
Engineered Plastic Foams

キャッシュフロー

(単位:百万円)

	営業活動による キャッシュフロー	投資活動による キャッシュフロー	財務活動による キャッシュフロー	現金及び現金 同等物の残高
2013年度	7,200	△8,430	190	6,972
2012年度	7,522	△5,783	△1,160	7,015

設備投資・減価償却費・研究開発費

(単位:百万円)

	設備投資額	減価償却費	研究開発費
2013年度	8,735	4,865	2,015
2012年度	6,215	4,390	1,933

(設備投資額はキャッシュベースであります。)

株式会社JSP

JSP Corporation
Engineered Plastic Foams

(ご注意)

本資料の予想は現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

お問い合わせ Tel 03-6212-6306 IR室